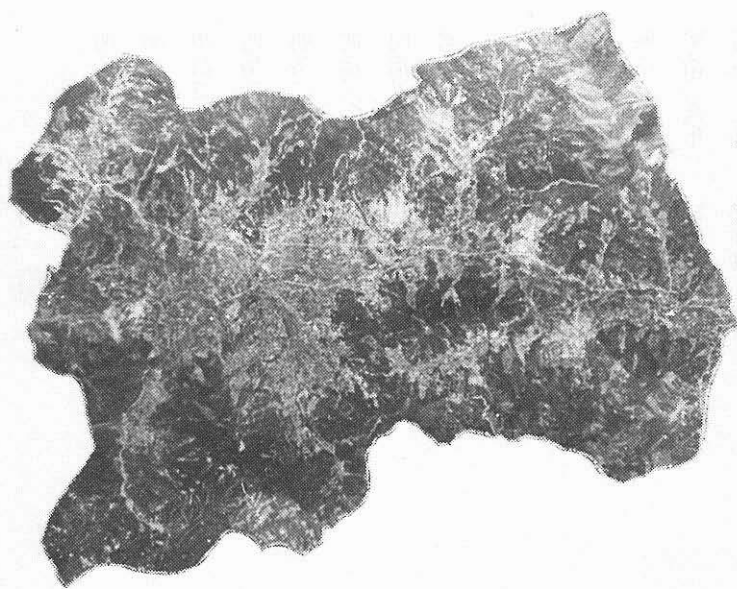




熊野町の地質（中間報告）

吉村典久

熊野町の地形的環境

熊野盆地は北東—南西方向にのびる直線状の細長い盆地である。しかも、この盆地のほぼ中央部を境にして、南側は二河川、北側は熊野川によって排水されている。この問題は、解決されるべき地形学上の大問題であるが、今回の調査で解決される程簡単な問題ではない。

まず、熊野町の地形的環境について概観してみよう。

熊野盆地を乗せている台地は、北東—南西方向にその長辺をもつ長方形の台地であり、その四隅に、鉾取・洞所山塊、小田山塊、絵下山塊、および灰ヶ峰山塊を配している。この熊野台地の西よりに、この台地の長辺方向と同方向に熊野盆地が形成されている。この幾何学的形状

は、地質学的構造によつて規定されている。この地質学的構造線が断層を代表するものか、或は、ある種の地裂を代表するものか、という問題が解決されるべき一大問題である。この問題は、今回の調査の終了までには或程度の目通しがつくであらう。

熊野町の地質的環境 熊野台地は、白亜紀の流紋岩類と花崗岩類とから構成されている。盆地周辺の山麓部においては、花崗岩類は深層風化を受けて灰白色のサブロライト（構造成風化物）に変化している。これらの深層風化と地形との関係も興味ある問題の一つである。さらに、盆地周辺の山麓部には新期砂・礫層の発達が認められている。これらの新期堆積物は、広島県地質図においては、西条砂・礫層としてその分布が表示されている。これらの新期砂・礫層として表示されているものは、それらの中に河川堆積物や土石流堆積物が認められていて、更に細分されるべきものである。これらの新期堆積物のより詳細な研究を通して、当地域の地形発達史もより詳細に解明されるであらう。この問題は、この調査の終了段階において、かなり詳細に論じられるであらう。

〔資料目録〕

ここに掲載された資料は、現在までに収集しえたものの一部にすぎない。今後逐次補っていくつもりですので、町民の方々はじめ多くの方々からのお力添えを期待しております。

参考文献

①熊野町「郷土誌編さん資料目録」(古文書目録)四二頁

熊野町役場文書

熊野・有馬家文書

熊野・伊藤家文書

熊野・碓井家文書

熊野・菅田家文書

熊野・光教坊文書

熊野・佐々木(高)家文書

熊野・佐々木(学)家文書

熊野・世良家文書

熊野・中原(明)家文書

熊野・中原(静)家文書

熊野・中村家文書

熊野・政田家文書

熊野・水木家文書

熊野・和田家文書

川角・織田家文書

川角・久保家文書

川角・須山家文書

中溝・榊山神社文書

平谷・沖田家文書

②熊野中学校『筆の都 熊野』昭和三年九月 四六頁

③熊野町商工会『筆の町 熊野誌』昭和三四年二月 本文一九一頁

④熊野第一小学校刊『生活をきづく書教育』昭和三〇年一〇月 二七〇頁

⑤田渕実夫『筆』法政大学出版局 一九七八年九月

⑥井上洋一郎『日本一の熊野筆』『広島財界今昔物語』昭和四二年 二六九～二七八頁

⑦世良統彦『有利な産地条件を生かす——広島県・熊野筆』『今日の伝統的工芸品産業——企業診断のアプローチのために』同文館 昭和五四年一〇月

⑧宮坂和雄『墨芸の栞』榊芸艸堂 昭和五四年

⑨植村和堂（本名 常次郎）『筆・墨・硯・紙』理工学社 一九七七年六月 一九七九年一二月

⑩『文房具の研究』書の友臨時増刊号

⑪松尾和幸『文房四宝集』松栄出版KK 昭和五四年六月

⑫後藤朝太郎『文房至宝』雄山閣

⑬木村陽山『筆』大学堂書店 昭和五〇年一〇月

⑭杉村勇造『文房四宝 筆』KK淡交社

⑮榊莫山『文房四宝 筆の話』角川書店 昭和五六年五月

雑誌論文等

①「毛筆元祖慰霊祭」『飽薇』七九号 昭和六年二月

- ② 西佐古義夫「熊野筆の沿革」『芸備教育』三三〇号 昭和七年
- ③ 「熊野筆」の特産振を天下に紹介せよ」『飽薇』一六九号 昭和一四年六月
- ④ 「熊野の筆」広島県『郷土の動き』
- ⑤ 星野英一「筆」芸備地方史研究会『広島県 今と昔の産業』二五号 二六号
- ⑥ 村上誠「筆」『広島県史』地誌編 昭和五二年三月
- ⑦ 「熊野の筆」『広島県の歴史散歩』山川出版 一九七六年 一九七九年
- ⑧ 「商工ジャーナル」別冊特集号 昭和五四年五月 商工ジャーナル社
- ⑨ 「通産ジャーナル一九八一年三月」下村秀雄氏稿
- ⑩ あかしや商品総合カタログ『筆』（株）あかしや（奈良） 一九八一年四月
- ⑪ 「熊野筆」山陽新聞社編『中国・四国の民芸』鹿島出版 昭和四四年六月
- ⑫ 国府田範造編『工芸百科大図鑑』全三巻村田書店 昭和一一年 昭和五二年一二月
- ⑬ 「熊野筆」通産企画調査会『日本の伝統産業』物産編（有）越中印刷 昭和五三年一〇月
- ⑭ 「熊野筆」伝統的工芸品産業振興協会『日本の伝統的工芸産業 ふるさとの心と歴史を語る工芸品』（株）米通信社
- ⑮ 「豊橋筆」愛知県商工部編『あいちの伝統的工芸品』愛知県伝統的工芸品産業振興協議会 昭和五六年三月
- ⑯ 「豊橋筆」『月刊 消費者』一九八一年九月
- ⑰ 広島政経新聞社『広島県市町村の現勢』町村編 安芸国の部 昭和四五年二月

⑮ 広島県商工労働部編『広島県の中小企業』昭和五十六年三月

⑯ 『熊野町商店街診断報告書』広島県中小企業指導所・熊野町・熊野町商工会 昭和五十六年

⑰ 熊野筆事業協同組合青年部『日中友好 第一次中国研修の旅』昭和五十五年十一月

⑱ パンフレット「熊野町郷土館」熊野町教育委員会 熊野町郷土館

⑲ パンフレット 広島県「広島県のふるさと産業」

⑳ 全国小学校社会科研究協議会監修「伝統的工芸品」伝統的工芸品産業振興協会 昭和五十五年一月

㉑ 広島県商工労働部「広島県の特産'80」 昭和五十五年三月

レコード・ビデオ

① レコード「伝統工芸筆の都 熊野町 筆まつり唄」(東芝EMI) 熊野町青年連合会企画 制作一九七九年

十一月

② ビデオ「行商シリーズ 熊野筆繁昌記」45分番組 熊野町教育委員会 一九七九年十二月二十四日午後八時

NHK教育放映

新聞

① 「筆作りの町」『山陽新聞』 一九五八年一月一六日

② 「熊野筆の穂先づくり一四年」『中国新聞・夕刊』 一九八〇年一〇月一七日

- ③ 「伝統の熊野筆ピンチ」『中国新聞』 一九八一年二月一二日
- ④ 「筆製造業者が相次ぎ倒産」『広島民報』 一九八一年二月二三日
- ⑤ 「不安に包まれる熊野筆 筆ペンなど進出が痛手」『赤旗』 一九八一年二月二八日
- ⑥ 「住民主導で打開 熊野 広島交通渋滞」『朝日新聞』 一九八一年三月二一日
- ⑦ 「物語つづり県史を紹介」『中国新聞』 一九八一年五月一〇日
- ⑧ 「いま古里で “立て直し” 目指す筆の里」『中国新聞』 一九八一年七月六日
- ⑨ 「大三島（愛媛）に書道美術館」『中国新聞』 一九八二年一月七日
- ⑩ 「瀬戸内に『書』の殿堂」『日本経済新聞』 一九八二年一月七日
- ⑪ 「産地を歩く 熊野筆 ままならぬ後継者育成」『朝日新聞』 一九八二年一月一二日
- ⑫ 「地場さんぎよう 熊野筆 中国製と筆ペンが競争相手」『赤旗』 一九八二年二月七日
- ⑬ 「手づくりの里 熊野筆 『穂先が命』 全神経集中」『中国新聞・夕刊』 一九八二年五月二九日
- ⑭ 「筆作りに繊維技術導入 脱脂、化学洗剤でOK」『中国新聞』 一九八二年六月十日
- ⑮ 「テニスブーム最前線 芸南グリーン ビジターに常時開放」『中国新聞・夕刊』 一九八二年六月二五日
- ⑯ 「熊野の団地宅地競売 問い合わせ100件超す」『中国新聞』 一九八二年八月六日
- ⑰ 「筆の町」熊野で日本一の超大筆 使った毛は馬100頭分」『中国新聞・夕刊』 一九八二年一一月一六日
- ⑱ 「渋滞解消へ妙案 停留所に大駐車場 マイカー出勤 途中からバスに」『中国新聞・夕刊』 一九八二年

一一月二〇日

①⑨ 「研究を開く 伝統産業への目 熊野筆に経営学のメス ゼミの学生と共同調査」『中国新聞』一九八二年
一月二六日

②⑩ 「熊野筆作り新時代 職人芸なじめぬ若者 科学処理導入『毛もみ』ラクラク」『中国新聞・夕刊』一九
八二年一月三〇日

〔熊野町史編集委員会および同調査委員会名簿〕

◎三 上 嘉 明 (広島大学学校教育学部部長、日本近代史)

○山 中 寿 夫 (文教女子大教授、日本近世史)

○神 鳥 武 彦 (広島大学学校教育学部教授、国語学(方言))

押 部 佳 周 (広島大学学校教育学部教授、日本古代・中世史)

小 野 忠 熙 (元広島大学学校教育学部教授、地理学(地形))

河 瀬 正 利 (広島大学文学部講師、考古学)

北 川 建 次 (広島大学学校教育学部教授、地理学(人文地理))

佐 中 忠 司 (広島大学学校教育学部助教授、経済学)

柴 原 健 児 (広島大学附属東雲中学校教諭、社会科)

友 久 武 文 (広島女子大学教授、国文学)

中 西 稔 (広島大学学校教育学部助教授、植物学)

藤 井 千之助 (広島大学学校教育学部教授、社会科教育)

星 野 英 一 (広島県立海田高校教諭、日本史)

水 岡 繁 登 (広島大学学校教育学部教授、動物学)

吉 村 典 久 (広島大学学校教育学部教授、地質学)

◎印 熊野町史編集委員会委員長 ○印 同編集委員、他は同調査委員 (アイウエオ順)

熊野町史刊行委員

○登里良太郎

文化財保護委員長 郷土史研究会々長

荒谷真治郎

前第一小学校々長

福岡孝義

前第四小学校々長 民俗芸能研究家

織田信

民俗資料研究家

中原明雄

民俗資料研究家

梶山孟

榊山神社宮司

猪野了周

西光寺住職

石山徹春

光教坊住職

○ 同委員長

熊野の歴史

〔研究ノート・第1号〕

昭和五十八年十月十五日 発行

非売品

編集 熊野町史編集委員会
発行 熊野町

(TEL 854-1124)

印刷 重本印刷株式会社